The army of the North melts away before the Rising Sun.

日本萬歲百撰百笑

○屠露氣武者

骨皮道人

あつい寒いも彼岸までとやらで、追ふ時候も好くなつて来たから、今まで青菜に塩で粟の粥を啜り、ヤット露の命を繋いで居た露兵乃一消隊も、爾ういつまでも日蔭に顫へて居る譯にも往ず、殊に雪でさへ枯木に花を咲せるから、露だからとて強ち一花咲かせられないでもも無からうといふ負惜しで、先づ負傷武消に出掛たのハ宜いが、何に致せ是までハ身体が凍て居たから、胴にか斯ほ固つて居たやうなものゝ、夫が急に日の光りに照されたから堪らず、忽ち頭の素徹邊から足の爪先に至るまで、ダラ〳〵ポツ〳〵と解け初めたので、まだ鉄砲の音もやつない中から、コリヤ至乱〳〵と大溢しに溢して居ると退將「コラ〳〵さうし騒いでも今となつてハモウ消へ失るより外に仕方がないどうせ是から引返して帰ッた事が、斯う丸潰れの形無しぢやア、面目なくて人に合せる顔も無いから

明治三十七年五月十日印刷 仝年仝月十日發行 画作兼發行者日本橋區吉川町二番地 松木平吉（電話浪花二千二百八十六番）